

第2回ワークショップの結果概要

1 視点や課題について

●視点全般

- 前回のワークショップでの意見が反映されているので、提示された6つの視点に過不足はない。
- 地域に公共施設がなくなると行事や町内活動ができなくなってしまうので、廃止の検討だけでなく、既存施設をいかに有効に使っていくかをハード、ソフトの両面から考える必要があると思う。地域の高齢化が進んでいるので、高齢者にとって使いやすいという視点も重視したい。
- 婦中地域は人口が多く、増加傾向にあるので、無駄な施設はほとんどないと思う。今の機能を維持してほしい。
- 施設が廃止された後の建物や土地は民間へ売却、地元へ譲渡、解体などの選択肢があると思うが、そのまま放置することがないように、廃止後のことまで考えて再編を検討してほしい。

●視点①地域全体の活性化

- 地域の中心になる地区を定めるのは良いと思うが、機能を集中させすぎると、公共施設の予約が取りにくくなって利便性が低下してしまうのではないかと懸念している。
- 旧婦中町の頃に各地区に持たせる機能を検討した結果として今の配置になっているので、中心を1つに絞るのではなく複数の地区に分散させる方が良い。ふれあい館、行政サービスセンター、西保健福祉センターを核にした3つのエリアに、それぞれ異なる用途の機能を集約させることも考えられる。
- 地域の中心を定めると今まで以上に人口が集中する地域と減少する地域の差が開いてしまう。車社会なので施設が集中していなくても不便はない。

- 自分のグループでは地域の中心に関する意見は出ていなかったのに、「地域の中心が不明確」という文言が全体の意見のように扱われているのに違和感がある。
- 6つの視点にある「地域」とは、婦中地域のことを指しているのか、それとも各地区のことを指しているのか明確にしてほしい。

●視点④利便性の向上

- 公共交通機関を使うことが多い高齢者などにとっては、施設までいかに移動するかが重要なので、主要な公共施設へのバスなどでのアクセスをしっかりと確保してほしい。

●視点⑤安全性の確保

- 安全性を確保するためには、「避難所を地区ごとに確保する」ことや「危険が予測される河川の近傍への配置を避けるように配慮する」ことに加え、避難所の運営スタッフの確保や、危険が予測される場所の改修工事などが必要だと思う。

2 地域の将来的な公共施設の再編方針（案）について

1) 集会施設

■ 施設全般

- 将来的な方向性として、小学校区に集会施設は 1 ヶ所というのは良いと思う。ただし、公民館は地区活動の中心となる大切な場なので、再編の検討は慎重にしてほしい。どうしても 2 つ残してほしいという地区があった場合は、1 つは市の施設とし、もう 1 つは地元に移譲して地区で運営することが考えられる。
- 廃止の有無などの今後の方向性は現段階で検討するとしても、実行するのは建物の耐用年数が来るのを待つのが良い。
- 再編に時間をかけすぎるのは問題なので、ある程度期限を区切って実行す

べきだと思う。

- 廃止する公民館が住民からの負担金で建てられたものだった場合には、市の意向だけで急に決められたら納得できない住民が出てくるのではないかと。
- 今後高齢者の免許返納が進めば、集まる場所があってもそこまで行く足がない人が増えてくるので、小学校区に 1 公民館にするのであればそこまでの交通手段を確保してほしい。
- 鶉坂地区のような人口が多い地区では、災害時の避難場所にもなる集会施設を増やす必要があるのではないかと。避難所での 3 密対策によって収容人数が少なくなると、今後ますます避難スペースが足りなくなるのではと懸念している。行政に頼るばかりでなく、地区と地元企業が連携して避難所や避難方法を考えることも必要ではないかと。
- 施設は運営する人が重要なので、コスト削減のために人件費を削ることがないようにしてほしい。集会施設を含む公共施設全体で人員配置を見直し、利用者が少なく時間の余裕がある施設の職員は複数の施設を兼務することなどを検討してほしい。

■ 宮川公民館・婦中熊野公民館

- 宮川地区と婦中熊野地区は小学校が統合し、保育所も統合が決まっているので、公民館の統合も致し方ないと思う。宮川公民館の耐用年数が来たタイミングでの実施が良いのではないかと。
- 宮川地区と婦中熊野地区の人口を考えると、公民館を統合する際には現在よりも規模が大きいものが必要になると思う。宮野小学校区は広いので、公民館の場所によっては行きづらくなる住民が出てくる。両地区からのアクセスの良さを考え、利用者の現状の利便性が変わらない配置を、住民の意見をしっかり聞いて検討してほしい。
- 宮川地区と婦中熊野地区にはそれぞれ固有の行事があるので、公民館の統合に対する住民の理解を得るためには、公民館が 1 つになってもそれら

を引き続き行えるような運営体制にすることが重要だと思う。

- まず地区センター機能を1つにして、その後公民館機能を一緒にするというように段階的に進めるのが良い。
- 統合された小学校と保育所の近隣に公民館も配置できると、相互に駐車場を使うことができるようになり、利便性が高まると思う。

■ 笹倉地区コミュニティセンター

- 耐用年数が過ぎており、利用率も高くないので、集約しても良いのではないか。
- 町内会、保育所や小学校の保護者の会合、地区外サークルの活動などで使われており稼働率は良いと思うので、地元に移譲して地区で運営することが考えられる。ただし、地区の運営になると地区外の利用者が使いにくくなる、改修が必要になった際に費用が出せない可能性があるなどの課題がある。
- 旧婦中町時代に企業の福利厚生施設を寄付してもらってできたものだ。耐用年数はきているが見た目には老朽化している感じはしないし、旧婦中町時代の歴史を大切にすることも意味でも建物は残せると良い。

■ 朝日公民館

- 老朽化が進み耐用年数も迫っているが、地区内に公民館は必要なので残したい。朝日小学校の空きスペースに公民館機能を移転することは考えられないか。住民と保護者や学校との関係は良いので理解は得られると思う。
- エレベーターがないので高齢者にとっては使いづらく、建て替えるとしたら平屋の方が望ましい。

■ 古里公民館

- 古里公民館にある婦中農村環境改善センターは農水省の補助金等で建てられているので、富山市だけの判断では廃止を決められないのではないかと。

2) 文化施設

■ 婦中ふれあい館

- 利用率の高い施設なので今のまま維持できると良い。ただ、地域外の利用者が多いので、地元の住民が優先的に利用できる工夫が必要だと思う。
- 増築を重ねて機能を追加しているようだが、それは計画性に欠けるとも言える。ふれあい館にあるべき機能と無くても良い機能を整理して、計画的な利活用をしてほしい。
- 車を運転できない高齢者のためにコミュニティバスの本数を増やすなど、施設までのアクセスの向上も図ってほしい。

3) 図書館

■ 婦中図書館

- 婦中地域は人口が増えており、子どもの人数も多いのに、婦中図書館は他の地域の図書館と比較して規模が大きいわけではないので、規模の縮小はあり得ないと思う。
- 婦中は学校の図書館が充実していると聞いたが、未就学児や大人も気軽に本と触れ合える地域になるように、ハードとソフトを充実させる方向での発展的な議論もしたい。ソフト面では、イベントやワークショップの開催や、学生が放課後の勉強で使えるように開館時間を延長できると良い。
- 図書館は速星地区にあるため音川地区からだと利用しにくい。井田川より西にあると音川方面からも利用しやすい。

4) 博物館等

■ 施設全般

- 安田城跡ガイダンス施設だけでなく、婦中埋蔵文化財収蔵庫の中にも貴重な資料が多くあるが、それらの婦中に関する資料や文献が分散して保管されており、周知されていないことが問題だと思う。どこか1カ所に集約して人に見てもらえるようにPRすることで、婦中の歴史を後世に伝えるこ

とができるようにしてほしい。

■ 安田城跡ガイダンス施設

- 安田城跡ガイダンス施設は安田城を説明するための施設なのだから、今の場所にあることに意味があると思う。
- 安田城が現存しているわけではないので、ガイダンス施設が今の場所にあるべき理由はないと思う。遺構や展示品は埋蔵文化財センターに移設することも考えられる。
- 出土品は婦中行政サービスセンターなどで展示し、ガイダンス施設では電子化した資料で見せるといった運営の工夫をすれば、展示がコンパクトになり、施設の床面積が縮小できるのでコストを減らせるのではないか。利用者の多い時期のみ職員を置くなど、コストをかけずに管理する方法も検討できると良い。
- 周辺を散策する人の休憩施設になっており、他に代替りの施設がないので、トイレだけでも残してほしい。
- 安田城跡は富山県で1番最初に国の指定になった貴重な史跡であり、四季を感じたり歴史を学べる良い施設なので、PRして利用者を増やし、収益を上げる工夫をすることを考えてはどうか。
- 安田城跡は国に指定された史跡なので、市の判断だけで方向性を決められないのではないか。施設で働いている人がいることも考えると、ワークショップで部外者が意見を言うのははばかれる。

5) スポーツ施設（体育館、プール、その他スポーツ施設）

■ 婦中体育館

- 地域唯一の一般に開放されている体育館なので改修して残してほしい。体育館に付随するシャワールームやジムなども改修して充実できれば、より多くの利用者が見込めると思う。

■ 婦中武道館

- 避難所にもなっているのでこのまま維持してほしい。利用者が減っていくなら、武道以外の用途でも使えるような多目的な施設に変えていけば良い。

■ 婦中体育館音川分館

- 利用率が低く、老朽化も進んでいる。地区住民は音川小学校の学校開放などを利用しているので、廃止になっても運動の場がなくなることはないと思う。
- 地区の避難所になっているが、旧耐震で改修工事も済んでいないので安全面に不安がある。避難所機能も危ういので廃止の優先度は高いと思う。

■ 婦中スポーツプラザプール

- 老朽化して屋根が壊れており、市内の市民プールが徐々に閉鎖されている状況も考えると廃止もやむを得ないだろう。小学校のプールや通年使える民間のプールもあるので、無くなっても問題はないと思う。
- プールの近所の住民で利用者があるので、すぐに廃止を決めず、まずは利用者を増やす方法を検討して維持することを考えたい。

■ 婦中スポーツプラザグラウンド

- 速星小学校の児童数が増えたため、部活や運動会などの行事を行う際に学校のグラウンドだけでは足りないが、近隣のスポーツプラザグラウンドを予約したくても1年以上前から予約をしないと空きがなく、天候などで予約変更をしたくてもできないことが多々ある。

■ ストリートスポーツパーク

- 利用者の多くは婦中地域外の人なので、地域住民の関心はあまり高くない。利用人数が少ないにも関わらず運営コストが高いため、早めの見直し

が必要ではないか。五輪に出場する人も利用するくらい施設レベルが高く、新しい施設なのでこのままではもったいない。

6) 観光施設

■ ふるさと創生館

- 展望台が主な施設でコストもそれほどかかっていない。公園内を散策する人の休憩所にもなっているので、老朽化しているが廃止するほどではないと思う。
- 利用者が少なく収入も少ないのならば、地元での運営も見込めないだろうし廃止しても良いのではないか。改修の必要もないと思うが、もしするのであれば床面積を減らし、休憩スペースとトイレだけを残した 1 階建てが良い。

7) 学校（小学校、中学校）

■ 施設全般

- 学校は地域の中核施設であり、避難所や子どもの見守りにも役立っているので減らしたくない。山田地域の事例の様に小学校に他の機能を複合することで、人件費などのコストを削減できないか。小学校に公民館、児童館、学童保育などの機能を複合できると良い。ただし、地域住民も学校に出入りするようになるとセキュリティの問題が発生する。
- 速星小学校周辺にマンションが建設されて住環境がさらに良くなれば、市の推計に反して今後も人口が増え、子どもも増える可能性があるのではないか。
- クラス数が減って空き教室が増えたら、それらの教室を特別教室などに利用することでのびのびと授業ができるというプラスの側面もあるのではないか。

8) 幼保・子ども園（保育所）

■ 施設全般

- 子どもが少ないからと保育所を減らすと、それが子育て世代の居住者を更に減らすことにつながりかねない。民営化が難しい地区では行政が保育所を運営するなどして、地区の保育所を維持してほしい。

9) 児童館・子育て施設

■ 施設全般

- 乳幼児を抱える保護者が子連れで行きやすい施設がないので、集まって交流できる場所がほしい。
- 放課後児童クラブを整備する必要があると思う。住民が連携して運営するなどすれば地区が活気づくのではないか。
- 共働きの多いこともあって児童館は良く利用されている。親子参加のイベントや夏休み中の工作・運動教室は人気が高くて予約が取れないこともあるので、もっと開催数を増やしてほしい。

■ 婦中中央児童館

- 駐車場も少ないので整備を検討してほしい。

10) 障害福祉施設

■ 富山市婦中生活介護事業所

- 現在の福祉ゾーン内にあるのが良い。

11) 保健施設

■ 西保健福祉センター

- 旧婦中町の頃に古里地区の福祉ゾーンと位置付けたエリアに西保健福祉センターや特別養護老人ホーム、シルバー人材センターなどを集約したという経緯がある。福祉機能が近接していることで連携が取りやすくなって

おり、地域内の施設の配置バランスの面から考えても今のままの立地が望ましい。

- 西保健福祉センターは古里地区の住民が洪水の際に使う緊急避難場所にもなっているので、今の場所で維持してほしい。
- 西保健福祉センターへのバスの本数が少ないので、行政サービスセンターに複合できれば、バスを主な移動手段にしている障がい者の利便性が高まる。
- 高齢者が多く利用している施設だと思うので、空きスペースをサロンのような交流の場に使えるといい。

12) 庁舎等

■ 婦中行政サービスセンター

- 婦中行政サービスセンターが様々な用件を一カ所で済ませられるような施設になると良い。今ある機能の中で行政として必須なものと移転しても問題ないものを整理して、どの程度の空きスペースが作れるかを考えた上で、そこに複合できる機能を検討してはどうか。
- 富山市役所本庁の機能の一部を婦中に移転できると良い。災害時などに本庁の業務をフォローできれば、危機管理の面でも良いのではないか。
- 速星小学校では数年後の児童が減った状態を想定して校舎の建て替え工事を進めているが、建て替え後すぐは児童数が急激に減っておらず、教室が足りなくなるかもしれない。速星小学校の特別教室的な役割で婦中行政サービスセンターを活用できないか。
- 地域内に点在している放課後児童クラブを婦中行政サービスセンターに集約できれば、小学校に近いので通いやすく、駐車場もあるので親にとっても便利になる。乳幼児のサークル活動などができる児童館の分館を作ることも考えられる。
- 図書館を行政サービスセンターに複合すれば、現状の暗さや古さを解決できるだけでなく、床面積が確保できるので蔵書数を増やせるのではない

か。図書館が移転した後のスペースを会議室などに転用すれば、利用者の多いふれあい館の需要に対応できるようにもなる。

- 空きスペースを老朽化している商工会館の代わりとして使用したり、民間企業や団体に貸し出してはどうか。シェアオフィスにして地域の個人事業主や子育て世代で自宅近くに作業場がほしい人などに使ってもらうことも考えられる。
- 婦中行政サービスセンターの開庁時間は平日の 8 時半から 17 時 15 分までと短く、空調や照明も一括管理になっている。休日や夜間に使用できず、民間企業等にとっては使い勝手が悪いので、空き部屋を貸すのは難しいのではないかと。空きスペースを全て貸してしまうと、必要な時に行政の会議ができなくなるなどの問題も出てくると思う。
- 現状で空きスペースが多くあるので、改修するとしたら今と同様の床面積は必要ないと思う。駐車場が足りないので 1 階を駐車スペースにして、2 階以上に行政機能を入れることが考えられる。
- 婦中行政サービスセンターは駅に近く、地域内の各地区からのバスも通っているため利便性が高い。今の場所が使いやすいと思う。ただ、大きな水害が起こった際に被害を受け、避難所として使えなくなるのではないかと懸念がある。
- 旧婦中町の中心である速星地区に位置していることに意味があると思う。旧富山市との合併前の過去の経緯も踏まえると、他地区に移転することになったら速星地区住民の合意が得られないのではないかと。地区内のどこにあるのが良いかについては、候補になる場所にどのくらいの空きスペースがあるかによるので、現状の情報量では議論が難しい。
- 婦中行政サービスセンターの利用者以外が駐車場を利用しているため、利用者が車を止められなかったり、駐車スペースがないことが会合を開く際の妨げになったりしている。

■ ワークショップの進め方

- 前回のワークショップは何から話していいか分からなかったが、今回は市から各施設の考えられる課題を出してもらったので具体的な議論ができ、意見も言いやすかった。
- 市はワークショップで出された意見をしっかり受け止めてほしい。
- 自分が住んでいない地区にある施設や利用したことのない施設のことは良くわからない。利用人数やコストなどのデータしか情報がないが、利用している人にとっては必要な施設かもしれないと思うと、数字を見ただけでは意見が言いづらい。